

情 報 提 供	
平成 19 年 1 2 月 2 1 日	
担当部署	社会連携センター：松浦
電 話	0 8 6 - 2 5 1 - 7 1 1 2

## 「第 6 回 岡大サイエンスカフェ」の開催について

岡山大学は社会連携活動の一環として、下記のとおり第 6 回岡大サイエンスカフェを開催することになりましたのでお知らせします。

記

### 1. 趣旨

岡山大学研究者の学術研究の成果等を地域社会に向かって平易な言葉でわかりやすく説明し、学生や生徒、社会人に多くの研究分野に対する興味と関心を持っていただき、研究者と参加者がコーヒーなどを飲みながら気楽な雰囲気の中での対話を通じて科学を身近に感じてもらい、併せて地域社会との連携を深めていくことを目的として開催するものです。

### 2. 開催日時

平成 20 年 1 月 2 4 日（木） 1 8 : 0 0 ~ 1 9 : 3 0

### 3. 開催場所

岡山大学創立五十周年記念館（岡山市津島中 1 - 1 - 1）

### 4. テーマ

海のちから ～生命のふるさと、資源の宝庫、そして気候変動の主人公～

### 5. 講師

岡山大学大学院自然科学研究科（理学部） 教授 本水 昌二  
（専門分野：分析化学）

### 6. 話の概要：

“海のちからは”は偉大である。46億年前に地球が誕生し、40億年前に海が生命を誕生させた。四方を海に囲まれた日本では、古くより海からの水産資源により多大な恩恵に浴している。

海のちからは、地球温暖化にも深くかかわっている。海流は熱を運び、温暖化にかかわる二酸化炭素の巨大な貯蔵庫の役割を担っている。海は、あらゆる元素を溶かし込んでおり、有用資源の宝庫である。希少金属、ウラン燃料などを海から取り出す時代もくるであろう。海底には膨大な量のメタンが眠っており、日本近海には、国内天然ガス消費量の250年分に相当するメタンハイドレートが存在する。

セルロースに次ぐ第二のバイオマス生産も海のちからによる。カニ、エビの甲羅の成分、キチン・キトサンは化粧品、医薬品、人工皮膚など医用材料、抗菌剤など幅広い用途があり、健康目的やガン治療目的などにも使用されている。

生命のふるさと、多くの恵みを与えてくれる“海のちから”を見直してみよう。

### 7. 参加対象者及び申込み方法等

参加対象者：社会人及び学生・生徒でサイエンスに興味のある方 **35名程度**  
（**先着順で受け付けます。**）ただし、本学の教職員・学生は除きます。

申込先：岡山大学社会連携センター

FAX: 0 8 6 - 2 5 1 - 8 4 6 7

E-mail: [s-renkei@adm.okayama-u.ac.jp](mailto:s-renkei@adm.okayama-u.ac.jp)

締切り：平成 20 年 1 月 1 8 日（金）

（氏名、年齢、電話番号または F A X 番号は必ず明記）

参加料：無料

以上